

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370203733 | | |
| 法人名 | 株式会社グループホーム長楽園 | | |
| 事業所名 | グループホーム 長楽園 (のんき) | | |
| 所在地 | 岡山県倉敷市菰池三丁目434番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 30 年 8 月 23 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igiyosyoCd=3370203733-00&PrefCd=33&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 |
| 訪問調査日 | 平成 30 年 9 月 21 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地面積は、2,507㎡ 延べ床面984.26㎡ 建築面積587.66㎡ 鉄骨造2階建て、準耐火建築物です。菜園・庭・駐車場も広々と季節感を庭・菜園で味わって頂き散歩や散策も自由に出来ます。癒しは柴犬が2頭と蘭鑄とメダカが飼育されています。興味のあることで、各人が遣り甲斐・生き甲斐を見つけ楽しい日々を過ごして頂き、悔いがない人生を応化して頂き「安心・満足・感謝」経営理念です。豪雨災害が真備でありましたが、海拔が高く津波の心配もありませんが、万一災害で建物が使用できなくても、同規模程度の鉄筋コンクリート2階建ての自社物件が有り、万が一の避難時も避難先は安心です。常時3日間の水、食事を確保しています。通常は電気調理器、風呂はLPGですが、非常時は、LPGで調理、冷蔵庫等はソーラーパネルで夜はLPG発電で対応予定です。安全・安心な広々空間でのびのび過ごす快適生活を提供いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3食手作りであり、利用者の意見を取り入れながらバランスの取れたメニューとなっている。利用者と一緒に食卓を囲み会話しながら食事をしたり、出前を取ったりして食事を楽しんでいる。また、庭へ出て食事やお茶をするなど、季節を感じながら楽しい時間を過ごしている。そして、自分たちで作った菜園の野菜を収穫・調理するなど、利用者の楽しみの一つとなるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者の1人1人が生き生きと人らしく生活できるようお手伝いをさせていただきます。を理念のもとに管理者、職員一同毎日ケアをさせていただいています。 | 理念を事務所とフロアに掲示し、日々の業務の中でその都度、声かけ・確認しながら職員に周知している。新人職員や入居者、家族にも理念を説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加わり、サロン会、地区のイベントに入居者も参加している。又小学校の学芸会に招待され双方で手紙のやりとりをしたり交流している。春秋のお祭りにお御輿で訪問してくれています。 | 地域のサロン会へ毎月参加している。地域のボランティアが来て、お芝居・銭太鼓・オカリナ・フラダンス等を披露している。また、小学校の学芸会に招かれたり、手紙交換したりして交流している。子供みこしの訪問もあり、地域の子供達と触れ合う機会も設けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域で開催される研修や会合に参加している。地域の方々の暮らしに役立つ事がないか相談に応じ、又施設において認知症ケアの勉強会を開催しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 偶数月に運営推進会議を開催し状況報告や意見交換し要望や改善点を聞き改善すべき処は改善し、施設の透明化を図り、理念の内容等を公開しています。 | 自治会・老人会・民生委員・愛育委員・地域包括が参加して、行事のお知らせや意見交換を行っている。改善等の意見は出来る限り早急に対応し、サービス向上に活かしている。議事録はいつでも閲覧できるようにしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 入居の方で生活保護受給中の方や又需給開始の方がおられたりし、当地区担当者や他の地区担当者と連携し日頃から密に連絡を取り合いながら常に情報を交換しています。 | 施設長が中心となり、市へ出向いて行き、相談・情報共有などを行っている。いつでも連絡が取れる体制が出来ている。市から研修案内が来れば参加しており、報告書を回覧し、職員間で情報共有している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員が身体拘束ゼロハンドブックを持ち、繰り返し確認をしながら理解を深め、代替えがないか意見交換し見守りを徹底し危険性のない自由が守られるよう支援しています。 | 年1回、施設長が中心となり研修を行っている。日々の業務の中で職員同士、注意しあえる関係が整っている。大きな道路に面しているため、安全確保のため玄関は施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止の勉強会や研修会等に参加し、職員全員で認識を深めるようにしています職員間相互で虐待防止と予防に努めています監視カメラの設置もあり抑止力を高めるように勤めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会の実施や研修会への参加で認識を深め、成年後見人、補佐、補助の必要と思われる場合は各関連部署と連絡を取りながら適切な対応ができるようにしています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約事前に施設長、管理者もしくは介護支援専門員の立ち会いのもと重要事項説明、各種同意書の内容説明を行い、本人又はご家族のご理解と同意納得をいただいたうえで契約を締結しています。解約時も同様に行います。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議の参加と家族会総会に参加していただき御意見、ご要望をお聞きし又相談窓口の常時受け付けで職員全員で検討し対処しています。 | 日常会話の中から汲み取るように努めている。面会時や家族会総会時などに時間を設けて話を聞いている。どの職員でも家族対応でき、疑問点などはその都度、説明している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から職員間のコミュニケーションを心がけ、その上で提案ノートを作り、意見や気づき、各提案を書いてもらうようにしている。その後意見交換や検討を行い運営に反映できるようにしています。 | 気軽に施設長や管理者に話せる関係づくりが出来ており、意見交換も行っている。また、日々の業務の中で面談も行っており、意見や提案を検討・実施し、再度検討して運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年1回位でメンタルヘルスの講習会を開催し人間関係の把握に努め、疲労やストレスの要因の軽減に努めています。また各職員がそれぞれにやりがいを持って働けるようにしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各職員が研修を受ける機会を得られるように勤務調整を行い、資格取得や資質向上を目指しその上で仕事の楽しさややりがいを持って仕事ができるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 関連事業所や同業者への見学や意見交換をして交流を深めている。地区の勉強会や医療連携会議に参加するなどしてサービスの質の向上に繋げるようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前のご本人の生活の状況や身体の状態をよく聞き取り、ご家族やご本人の不安や要望を伺いホームの環境に馴染んでいただけるようにしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご本人とのより良い関係作りとご家族のいま抱えているものやご要望を伺い信頼を得て暮らしていけるような体制作りを目指しています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族の思いを大切にし、不安な事を出来るだけ軽減できるように信頼関係を構築できるように心がけています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 同じテーブルで同じものを食し、共に泣いたり笑ったりしながら支援する側、支援される側の垣根を越えまたある時は逆に教えていただいたりとの関係作りを心がけています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者の訴えや変化をお便りやお電話でお知らせをしたり面会時にお話しをしてご本人とご家族の思いを尊重した支援をしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方が訪問しやすい環境作り心がけご家族、知人、友人の方との関係や繋がりが継続できるように支援しています。 | 家族・近所・友人(趣味仲間)の来訪があり、自由に面会出来るように配慮している。また、年賀状を出すなど、関係が途切れないよう支援している。家族と一緒に馴染みの散髪屋さんに出かける利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 生活の中心となるホールでの暮らしの中でテーブルの位置を変えたり、職員が間に入り入ゲームをしたり歌を唄ったりと入居者同士の関係作りが上手くいくようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了し、たとえお亡くなりになっていても電話をしてお互いの近況を話したり、情報提供をしたり通りがりでも立ち寄っていただいています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の言動、行動及び表情と様々な事を考え併せて思いや不安をくみ取り、ご本人でのくみ取りが困難な場合はご家族とも相談し情報を得ていくようにしています。 | 日々の会話の中から個別に話す機会を設けて、希望や意向を汲み取っている。表情や仕草などからも汲み取るように努めているが、困難な場合は家族やケアマネジャー・看護師などから情報収集し、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前にご家族や、病院のケースワーカーや居宅のケアマネジャーからも情報を仕入れ生活歴、環境及び病歴を把握するように努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1人1人の生活リズムを考えその上でそれぞれの出来る事、残存機能を維持できるように職員全員が把握できるように努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者と職員全員で作成のプラン現状を踏まえご本人、ご家族の希望や意向を反映させ状態の変化にも柔軟かつ迅速に対応できるようにしています。 | 6か月ごとにモニタリング・見直しを実施している。全職員から意見・情報を交換し、計画に反映している。状態が変化した時はその都度話し合い変更している。更新前に担当者会議を行い、医師・看護師の意見も聞いている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の介護記録には病状、身体の状態主治医の指示、訪問看護の指示を記入している。気づきや職員全員に知っておいてもらいたいことは送りノートを書いて計画の見直しに役立てています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入所者やご家族の状況や変化に合わせてたり場合によっては行政とも相談しながらその時々に応じて対応しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 二か月に一度の運営推進会議や地域の自治会活動に参加したり関係行政と話し合いを行い協力関係を構築をしています。又消防、図書館等の資源を活用をしています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に受診希望をお伺いし、往診、通院をご家族の希望を踏まえそれぞれの受診方法を決めています。尚特別な診療科や市外の大きな病院を受診希望される場合はご家族にお願いしています。 | 入居前の主治医の継続は可能であるが、家族に協力を依頼している。協力医の訪問診療は2週間に1回、訪問看護は1週間に1回来訪している。協力医は24時間対応であり、訪問歯科は希望者のみとなっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 往診の診療所と同じ所属の看護師さんと24時間体制で連携をとっており又週に1回の訪問で健康管理をおねがいでいます。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 主治医の指示を常に把握しながら入院が決定となると一緒に行き病院の担当医、看護師さんと情報交換をし今後の入院生活がスムーズにいけるようにできるだけ早期に退院できるように相談をしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時にご家族に大体のお考えを聞いておき、面会の度に考えに変更があるかどうかお伺いしています。疑問点や不安な事は主治医や看護師と直接話し合いができるように調整しています。 | 入居時、指針を基に管理者が説明を行い、同意書を作成している。看取り支援を実施する時は医師から指示があり、再度、家族・医師・看護師・ケアマネージャーと話す機会を設け、同意書を作成し、勉強会も実施している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 倉敷市消防署の救命救急士の方を招いて毎年全ての介護職員が救命救急の講習を受講し普通救命終了書を持っています。毎年訓練の実施をしながら毎回気持ちを引き締めています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の防災訓練にも参加しています。備蓄水、備蓄米、備蓄食料の準備通常オール電化だがライフラインが止まった時ようにガスや発電機も用意しています。 | 年2回避難訓練を実施しており、利用者・職員が参加している。消防署の立会いもあり、アドバイス・指導を受けている。備蓄は1階の食品庫に確保している。 | 連絡網を活用した訓練に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 1人ひとりの人格や尊厳を大事にし、入浴、排泄介助には特に気を配り、不安感や羞恥心を最小限にできるようにしています。名前の呼び方にも注意しています。 | 特に排泄・入浴時は周囲に配慮した言葉かけを実践しており、同性介助も対応可能である。その人に合った呼称で呼んでおり、家族の同意も得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その日に着る洋服や入浴後に着る洋服はそれぞれにご本人を選んでいただいています。食事も米飯かパン食かも選んでいただく様にしています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人の思いや希望、入所前の生活スタイルをご本人、ご家族に聞き共同生活に支障のない限りでより良い日常生活ができるように支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時の整容においても自分でお気に入りの髪形に整えたり、職員に手伝ってもらったり、口頭で伝えてもらったりされています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の方と畑で水やりや収穫をしたりしています。職員と一緒に野菜の下ごしらえをしたりテーブルを拭いてもらっています。 | 菜園で収穫した野菜や季節の物を取り入れたメニューを作成している。また、利用者の意見を取り入れるなど食事が楽しめるよう取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者の方の持病や既往歴を考えバランスのとれた食事内容にしています。又その方その方に合わせた形態のものをお出しするようにしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後には歯磨き、義歯の洗浄をしています。自歯や義歯の無い方の口腔ケアも欠かさないようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日常の排泄パターンを調べ、可能な限りトイレでの排泄ができるようにしています。それによっておしめの使用の軽減に繋げるようにしています。 | 個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け・誘導を行っている。状態に合わせてその都度見直し・検討している。自立に向けた支援に取り組んでおり、改善も見られている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の食事のメニューはまず食べ物の工夫をし、ヨーグルトや牛乳の摂取、毎日の体操を全員でしています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 健康状態に異常がなければご本人にまず声かけをし入浴のお誘いをしてあまり理由もなく拒否をされる方には時間をずらしたり職員が変わってみたりしてできるだけ気持ちよく入浴できるように支援しています。 | 週3回の入浴を基本としており、一日を通して入浴できるよう対応している。周囲の状況に配慮しながら、毎日の入浴にも対応している。入浴を嫌がる時は日時を変更したり、職員を交替したりして対応している。季節湯も入浴時の楽しみの一つとなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調不良の方、感染症の方、主治医の指示で自室で過ごす方以外は日中はできるだけ食堂等で過ごしてもらい、午前中は活動的に、午後は静かに過ごしてもらい夜間の安眠に繋げるようにしています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 往診時や訪問看護時に変化や症状を話し、何時も通リか変更かを聞き薬剤師の配達時に再度効能や副作用について説明してもらい説明書を把握し誤薬のないようにしています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人に日頃よりやりたいこと生きがいがいったことを話していて、それぞれに合わせてベランダでの水やりを試みたりしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 支障のない限り外出はできますが入所期間が長期化するのととも外出が困難になりつつあります。受診の帰りに売店に寄ったり、道中にコンビニに寄って買物してもらったりしています。 | 庭やベランダで食事やお茶をして楽しめるように支援している。また、畑で育った野菜を収穫したり、洗濯物を干したりしながら季節が感じられるように取り組んでいる。日常的に家族と外出している利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 園の中で多くの金額は持ってもらえませんがご本人、ご家族の了解のもと外出時や受信時に少額のお金を持ってもらい買物をしてもらっています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 毎年年賀状はご家族や知人に出してもらうようになっています。文章が書ける方は文章もそれ以外の方は名前だけでも書いていただいています。電話は職員がついて何時でもかけられるように支援しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂やホールをできるだけ明るく保ち、季節の花や飾りをかざるようになっています。それぞれの季節の飾り付けをしたりしています。又浴室等は室温の管理にも気をつけています。 | 快適に過ごせるよう温度・湿度管理の徹底に努めている。季節の花や利用者が作成した作品をホールに飾り、居心地良い空間を作り上げている。畳スペースもあり、いつでも寛げる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間にはソファを置き、食事以外をそちらでも寛げるようになっています。畳の間では上がる事が出来る方はそちらでも休めるようになっています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みのものや使い慣れたものをご本人と相談し配置しています。寝具もできるだけ自宅ですべての物を持ってきていただいて使用するようになっています。 | 仏壇やアルバムなど、馴染みの物を持参しており、個々にその人らしい居室となっている。レイアウトも自由であり、利用者の状態や状況に合わせて決定している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室内はご本人の残存機能を最大限に生かせるようにベッドや家具の配置をかんがえています。職員全員としっかり話し合いながらその時々で変更もしています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-------------------|------------|
| 事業所番号 | 3370203733 | |
| 法人名 | 株式会社グループホーム長楽園 | |
| 事業所名 | グループホーム 長楽園 (あんき) | |
| 所在地 | 岡山県倉敷市菰池三丁目434番地 | |
| 自己評価作成日 | 平成 30 年 8 月 23 日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igiyosyoCd=3370203733-00&PrefCd=33&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 |
| 訪問調査日 | 平成 30 年 9 月 21 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地面積は、2,507㎡ 延べ床面984.26㎡ 建築面積587.66㎡ 鉄骨造2階建て、準耐火建築物です。菜園・庭・駐車場も広々と季節感を庭・菜園で味わって頂き散歩や散策も自由に出来ます。癒しは柴犬が2頭と蘭鑄とメダカが飼育されています。興味のあることで、各人が遣り甲斐・生き甲斐を見つけ楽しい日々を過ごして頂き、悔いがない人生を応化して頂き「安心・満足・感謝」経営理念です。豪雨災害が真備でありましたが、海拔が高く津波の心配もありませんが、万一災害で建物を使用できなくても、同規模程度の鉄筋コンクリート2階建ての自社物件が有り、万が一の避難時も避難先は安心です。常時3日間の水、食事を確保しています。通常は電気調理器、風呂はLPGですが、非常時は、LPGで調理、冷蔵庫等はソーラーパネルで夜はLPG発電で対応予定です。安全・安心な広々空間でのびのび過ごす快適生活を提供いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3食手作りであり、利用者の意見を取り入れながらバランスの取れたメニューとなっている。利用者と一緒に食卓を囲み会話しながら食事をしたり、出前を取ったりして食事を楽しんでいる。また、庭へ出て食事やお茶をするなど、季節を感じながら楽しい時間を過ごしている。そして、自分たちで作った菜園の野菜を収穫・調理するなど、利用者の楽しみの一つとなるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員が理念を理解し、生き生きと生活して頂けるよう日々のケアに取り組んでいる。又施設関係者や家族にも、その都度説明している。 | 理念を事務所とフロアーに掲示し、日々の業務の中でその都度、声かけ・確認しながら職員に周知している。新人職員や入居者、家族にも理念を説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事や防災訓練への参加、ふれあいの会などに積極的に出かけ意見の交換や会話を楽しみ、地元野菜や季節の花などを頂き、交流を楽しんでいます。 | 地域のサロン会へ毎月参加している。地域のボランティアが来て、お芝居・銭太鼓・オカリナ・フラダンス等を披露している。また、小学校の学芸会に招かれたり、手紙交換したりして交流している。子供みこしの訪問もあり、地域の子供達と触れ合う機会も設けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域での自治会や老人会に出来る限り参加して、認知症についてや支援方法等の相談に耳を傾けている。又、困っている事など意見交換をし、努力しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 偶数月に開催し、行事や入居者等の報告を行い、意見や要望等の助言を頂き、現場に活かせる様に努めている。 | 自治会・老人会・民生委員・愛育委員・地域包括が参加して、行事のお知らせや意見交換を行っている。改善等の意見は出来る限り早急に対応し、サービス向上に活かしている。議事録はいつでも閲覧できるようにしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 担当者には現状をよく知って頂き些細な事でも積極的に相談し協力をお願いしています。その上でより良い、ケアサービスの向上に努めています。 | 施設長が中心となり、市へ出向いて行き、相談・情報共有などを行っている。いつでも連絡が取れる体制が出来ている。市から研修案内が来れば参加しており、報告書を回覧し、職員間で情報共有している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束禁止の行為は職員全員が理解し、見守りしながら自由に動けるようケアサービスに取り組んでいる。 | 年1回、施設長が中心となり研修を行っている。日々の業務の中で職員同士、注意しあえる関係が整っている。大きな道路に面しているため、安全確保のため玄関は施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止については全職員認識しており、メンタルヘルス講習を開催し、職員のストレスがたまらない様に努めています。また、問題行動監視を目的とした監視カメラも設置しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会にて学ぶ機会を持ち、全職員の理解を深め。本人の権利を守り支援に結び付けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 施設長と管理者が立会い、契約事前に重要事項説明等、同意納得後に契約を締結しています。解約時も同様に行いません。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にて家族代表等に出席して頂き、意見や要望を聞き職員全員で検討し実行、実施している。又、ご意見箱を設置し利用して頂いている。 | 日常会話の中から汲み取るように努めている。面会時や家族会総会時などに時間を設けて話を聞いている。どの職員でも家族対応でき、疑問点などはその都度、説明している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 意見や提案があればノートに記入して頂き、内容に応じて意見交換、検討を行い運営に反映できるようにしている。 | 気軽に施設長や管理者に話せる関係づくりが出来ており、意見交換も行っている。また、日々の業務の中で面談も行っており、意見や提案を検討・実施し、再度検討して運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員同士の人間関係を把握したり、疲労やストレスの要因にも配慮している。また、職員がやりがいを持って働けるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量に合わせた研修や実践講習に参加するようにしている。職員の気力向上になり、仕事の面白さにつながっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内での勉強会や医療連携会議に参加しており、同業者との交流する機会も増え、サービスの質の向上につなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に御家族、ご本人と面接し生活の状況、心身の状況、生活歴等を伺い、ご本人の思い、習慣等把握、周知に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前に御家族、ご本人と面接し不安や要望等を伺い、ご家族の困っていることや要望等をしっかり聞きサービス提供に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の思い、不安なことに対して出来ることは直ちに実行し対策を考慮している。また、緊急性や早急な対応が必要な方には、各関連事業所と連携をとり柔軟な対応を行なう。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の気持ちや思い等そっと見守り、日々の生活の中で、出来ることは一緒に行なっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族来所時には、居室またはホールで本人とゆっくり過ごして頂けるようにしている。また、本人の日頃の状況を報告し、ご家族の思いを尊重した支援を行なっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方など訪問あればゆっくりと過ごして頂き、今後も来て頂くように会える機会を作るようにしている。 | 家族・近所・友人(趣味仲間)の来訪があり、自由に面会出来るように配慮している。また、年賀状を出すなど、関係が途切れないよう支援している。家族と一緒に馴染みの散髪屋さんに出かける利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握しそれぞれ椅子やテーブルの位置を考えくつろいだ時間を作る。また、一つのテーブルを囲み、ゲームなど行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても本人の安否を確認したり、入院中の方には家族への情報提供や相談の支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者一人一人話し合う時間を作り、趣味や思い、又、やりたいことなどの把握に努めている。 | 日々の会話の中から個別に話す機会を設けて、希望や意向を汲み取っている。表情や仕草などからも汲み取るように努めているが、困難な場合は家族やケアマネジャー・看護師などから情報収集し、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前にご家族や本人に生活歴をお聞きし、安心して生活して頂けるように、日々ケアサービスに努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の体調管理、夫々の生活リズムを考慮しながら、出来ることは職員と一緒にこなすように、一日一日の暮らしの支援をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミーティングで職員と本人主体のケアを話し合い、また家族にも必要に応じて意見や情報を取り入れ、計画を作成している。 | 6か月ごとにモニタリング・見直しを実施している。全職員から意見・情報を交換し、計画に反映している。状態が変化した時はその都度話し合い変更している。更新前に担当者会議を行い、医師・看護師の意見も聞いている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | バイタルの記録はもちろん、日々の変化を細かく記録し、申し送りなどで体調変化や状況を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々変化する入居者の様子、職員同士意見を出し合いながら、サービスを心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的に図書本等を置き活用したり音楽(オカリナ)、フラダンスやお芝居など施設訪問にて踊りなどに参加し楽しく過ごしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に受診希望をお伺いし、往診受診か病院受診か、受診方法の希望を伺っている。協力病院との契約で、緊急時の対応が24時間出来ている。 | 入居前の主治医の継続は可能であるが、家族に協力を依頼している。協力医の訪問診療は2週間に1回、訪問看護は1週間に1回来訪している。協力医は24時間対応であり、訪問歯科は希望者のみとなっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護を受け健康管理と体調の変化や行動等を伝え、情報を共有し主治医、訪問看護、介護職員の連携を密にしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は病院側に情報提供書を提出し、定期的に病状を見舞うようにしている。退院時には家族、病院側、職員にて退院後の生活の情報の共有を行なっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の意向を踏まえて話し合い、意見や要望を把握し、医療との連携、治療の方針等支援している。 | 入居時、指針を基に管理者が説明を行い、同意書を作成している。看取り支援を実施する時は医師から指示があり、再度、家族・医師・看護師・ケアマネージャーと話す機会を設け、同意書を作成し、勉強会も実施している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署職員による応急処置や救命救急の講習を受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、防災・防火訓練を実施している。職員は建物の構造や備品の場所、連絡の仕方など常に念頭に置いている。 | 年2回避難訓練を実施しており、利用者・職員が参加している。消防署の立会いもあり、アドバイス・指導を受けている。備蓄は1階の食品庫に確保している。 | 連絡網を活用した訓練に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格に尊厳を持ち、低い姿勢から声かけを行なっている。特に、トイレ誘導や入浴介助の際には言葉かけに十分配慮している。 | 特に排泄・入浴時は周囲に配慮した言葉かけを実践しており、同性介助も対応可能である。その人に合った呼称で呼んでおり、家族の同意も得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の自己決定を尊重している。特に日頃の衣服や入浴時の衣服など、本人の意思を重視して。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 共同生活に支障のない様に、本人の希望に沿った、行動、活動を支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 屋間や入浴時など自分で衣服など選び着ていただく。又、男性には髭剃りなどの声かけを行なう。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 感染症対策等の諸事情の中で食品衛生の認識の出来る人に限り、野菜の下処理やテーブル拭きをして頂いています。 | 菜園で収穫した野菜や季節の物を取り入れたメニューを作成している。また、利用者の意見を取り入れるなど食事が楽しめるよう取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランスの良い献立表に基づいた調理をし、味付けや量に配慮している。また、食事量と水分量のチェックも行なっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後のうがい・歯磨き、義歯の洗浄等、一人ずつ口腔ケア介助、支援を行なっている。夜間は義歯の消毒等も行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけには十分周囲に配慮し、トイレ誘導等行なう。また、尿意の残存機能の存続を促すケアを支援しています。 | 個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け・誘導を行っている。状態に合わせてその都度見直し・検討している。自立に向けた支援に取り組んでおり、改善も見られている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘症の方にはかかりつけ医と相談の上対応し、一時的の方には、体操や運動・食べ物の工夫・水分摂取等で対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週3回、午前・午後と入浴が出来ます。本人の希望を聞き、体調みながら、出来る限り入浴をさせて頂いています。羞恥心・恐怖心・安全には十分注意している。 | 週3回入浴を基本としており、一日を通して入浴できるよう対応している。周囲の状況に配慮しながら、毎日の入浴にも対応している。入浴を嫌がる時は日時を変更したり、職員を交替したりして対応している。季節湯も入浴時の楽しみの一つとなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調の悪い方や感染症の方は自室にて過ごして頂き、又、一日中離床が困難な方には、午後短時間臥床して頂くなど臨機応変に対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 往診時に処方薬の変更があれば担当医と相談、申し送りノートにて周知している。服薬時には名前の確認も細心の注意をしている。また、薬剤師による薬の勉強会も開催している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来る仕事・楽しくやれる仕事の役割分担を把握し、声かけし手伝って頂く。又、天気の良い日には外の庭園で茶会など、気分転換等の支援をしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 風邪など感染の恐れの間中は外出を避け、病院医療機関受診・真夏日・真冬日の外出も出来るだけ避けるようにしている。 | 庭やベランダで食事やお茶をして楽しめるように支援している。また、畑で育った野菜を収穫したり、洗濯物を干したりしながら季節が感じられるように取り組んでいる。日常的に家族と外出している利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の自己管理は紛失等、多々トラブルもあり、ご本人とご家族に相談・了承の上、一括管理を行なっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の申し出に添って対応しており、電話はご家族の了承のある方は支援を行なっている。年賀状を作り書ける能力に応じ、ご家族に送る。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホール内は広々としており車椅子でも気兼ねなく移動でき、ホール、居室内を明るい雰囲気にするように配慮している。 | 快適に過ごせるよう温度・湿度管理の徹底に努めている。季節の花や利用者が作成した作品をホールに飾り、居心地良い空間を作り上げている。畳スペースもあり、いつでも寛げる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間にはソファを置き、夫々気の合った利用者同士で気兼ねなくくつろいで頂くように支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時などに、馴染みや思い出の品等を持ってきて頂く様努めています。 | 仏壇やアルバムなど、馴染みの物を持参しており、個々にその人らしい居室となっている。レイアウトも自由であり、利用者の状態や状況に合わせて決定している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室内は、本人が判りやすいように物を置く。居室・トイレ・洗面・浴室等場所が判るように目印をつけています。危険に繋がるような物は避け、出来ない事への支援を心がけている。 | | |